

第131回東北地方交通審議会  
船員部会 議事要録

令和元年9月27日  
東北地方交通審議会  
船員部会事務局

# 東北地方交通審議会 第131回船員部会

日 時 令和元年9月27日(金) 13:30～

場 所 仙台第4合同庁舎 4階会議室

出席者 公益委員 : 高橋(真)部会長、増田部会長代理

豊田委員、佐々木委員

労働者委員 : 熊谷委員、高橋(雅)委員、鈴木委員

使用者委員 : 勝倉委員、白幡委員、平岡委員

運輸局 : 畠山海事振興部長、丹藤海事振興部次長

佐藤船員労働環境・海技資格課長

柳田船員労政課長、鈴木専門官、渡邊労政係長

## 議 題

(1) 管内の雇用等の状況について

(2) その他

## (資料)

- 資料1 船員職業安定業務取扱状況説明資料(7月分)
- 資料2 新規求人・求職数(東北管内:3年対比)
- 資料3 有効求人・求職数(東北管内:3年対比)
- 資料4 新規求人・求職数(全国)
- 資料5 有効求人・求職数(全国)
- 資料6 有効求人倍率(東北管内)
- 資料7 有効求人倍率(全国)
- 資料8 船員の特定最低賃金の改正に係る意見聴取の公示
- 資料9 新聞情報

参考資料 令和2年度 海事局関係予算概算要求概要

◎開 会

【丹藤海事振興部次長】

〔第131回船員部会の成立状況について報告〕

〔配付資料の確認〕

◎議 事

(1) 管内の雇用等の状況について

【高橋（真） 部会長】

それでは、議事に入ります。

お手元にあります議事次第の「議題（1）管内の雇用等の状況について」、事務局から報告をお願いします。

〔柳田船員労政課長から資料1から資料7に基づき報告〕

【高橋（真） 部会長】

ただいまの報告について、何かご意見、ご質問ありますでしょうか。

【高橋（雅） 労働者委員】

資料2の表で、内航商船の求職が、大分増えていますが、これは倒産とか何かあつてのことですか。

【柳田船員労政課長】

昨年とは少し傾向が違ふと思ひ、詳細をとってみましたが、どこか倒産したということではなく、今回7月分としては、タンカーの求職数が17と大きく増えたということです。その他、引き船・作業船と続きますが、どこかが倒産したとかの話は聞いていません。

(2) その他

【高橋（真） 部会長】

よろしいですか。ほかにありますか。

なければ、次に、議事次第の「議題（2）その他」に入ります。

初めに、資料8について、事務局から説明をお願いします。

〔柳田船員労政課長から資料8に基づき説明〕

【高橋（真） 部会長】

ありがとうございました。

今の説明について、何かご意見、ご質問ありますでしょうか。

なければ、次に、各委員の皆さんから情報提供をお願いしたいと思います。  
最初に、労働者委員からお願いします。

**【高橋（雅）労働者委員】**

全日海の80回目の定期全国大会ですが、11月6日から8日まで、今回は中間大会ということで高松で開催いたします。2年に1回、基本的な方針を決め、中間大会は、この去年の活動方針を補強する内容の大会になります。

**【高橋（真）部会長】**

ありがとうございました。  
そのほかありますか。

**【熊谷労働者委員】**

新聞にも結構載っていますが、今期のサンマ漁は、依然として不漁から全然抜け出せない状況が続いています。累計の水揚げも9月中旬現在、去年のわずか11%で、9月下旬になっても今のところ全然漁にも出られない状況となっていて、近年最低の2017年と比べても、その3割にもまだ至っていない現状です。

今の主漁場ですが、道東の大体1000キロ以上離れた公海上で、大型船でも二昼夜半かかって行き、一晩での各船の漁獲量の平均は数トンレベルといった程度です。魚体については30センチ前後で重さも100から120グラムと細身で、脂肪も少ないという状況です。これからの漁が急激によくなる兆しは全然なく、先行きこれからも厳しい状況となっています。

**【鈴木労働者委員】**

八戸のメインの漁であるスルメイカですが、9月1日から沖底が出漁しました。9月の今の段階で12隻あり、今年は、しけも多くて、今までで10日くらいしか出航していませんが、とってる船は水揚げ1億くらい、とらない船は3,500万くらいと、トップと下がすごい差となっています。

また、中型イカ釣り船ですが、八戸がメインで今27隻くらいありますが、今年は日本海のスルメイカが、だめということで2航海、アカイカをとり太平洋の沖に行きました。先日、全船帰ってきて水揚げし、この台風が行った後に、ようやく今度は日本海にスルメイカをとりに出漁しました。

**【高橋（真）部会長】**

わかりました。ありがとうございます。  
では、使用者委員から、お願いします。

**【勝倉使用者委員】**

今の熊谷委員のサンマの話に気仙沼側の立場として補足しますが、やはり今は漁場が1,000キロ以上遠方であり、これまで例年ですとこの出だしは北方領土の周

辺の海域、北海道根室から北東方向の一昼夜とか半日とか比較的近い所での漁獲で、そこで漁があるとかないとか話をしていました。サンマというのは、沖から回遊してきて、ロシア海域から北海道沿いに三陸沖に下ってくるという回遊をしています。今年はその北方領土付近にサンマが全くいません。中型大型の船は1,000キロも遠くまで漁をしに行ける航続、航行できる能力がありますが、比較的小さい19トンクラスの小さい船に関しては、もう北方領土の付近の操業を諦めて気仙沼とかその母港に帰ってきて、もう漁をやめている、もしくは北海道近辺でイワシの漁に当たっているということで、サンマの漁を全くやっていない状況になっています。

1,000キロも離れた海域で3日かかっても、先ほど熊谷委員が言ったように数トンにとどまっています。気仙沼でもこれまで1カ月以上解禁になってからたち、今日も水揚げ22トンありましたが、それを合わせても合計3回で合計50トンの水揚げにしかなっていません。そして、その魚体もやはり100グラムから120グラムが半分、もしくはそれ以下のものも二、三割入るような、例年に比べて一回りも二回りも小さいサイズであり、当初から言われていましたが、全体的に細身で脂が薄いということで、気仙沼の業者の人たちも出荷した先から消費者離れを危惧しているということです。今、解凍サンマを並べて置いてある状況ですが解凍サンマを100円台、そしてその新物のサンマを300円とか500円とかの値段で売っていると、どうしても解凍サンマのほうが脂があって大きくて、安くて、うまいということで、消費者は新物のサンマには手をつけずに、その解凍サンマに手をつけるようで、今年のサンマの消費者離れを産地としては非常に心配しているところです。

それに加えて、その解凍サンマにしても、今全国の在庫量が約2万トンレベルだということで、去年は全体の流通量、水揚げ量が12万トンくらいありましたが、今年は何のくらいまで落ち込むのかわかりませんが、仮に2017年の7万5,000トンレベルを下回ってくるような場合には、早々にその在庫も底をついて、来年に回す、もしくは冬場、来年加工用に回す在庫がもうなくなってしまふ。ひいてはサンマを当てにする商売から離れていくということも少し心配していて、それがサンマ漁に対して今後どのような影響を及ぼすのかということも産地としては非常に危惧しているところです。非常に深刻です。

#### 【鈴木労働者委員】

今の話に付随しますが、ロシアでもサンマ漁船が何十隻もあるそうですが、今年は何隻しか出なくて、その5隻ももうサンマがないので諦めて帰っていくそうです。そういう情報もあり、サンマに関しては本当に大変なことが起きるかもしれません。

#### 【熊谷労働者委員】

福島の開きをやっているサンマ業者さんですが、今までストックしていたサンマが、やはり年末くらいで底をつくような話をしていました。

**【勝倉使用者委員】**

それに、去年に比べて2倍くらいの単価となっていて、それは加工用には向かない値段であり、もう加工した瞬間に赤字になる。非常に漁船側も厳しいし、流通加工、最終的には消費者も厳しいという、皆が厳しい状況になっています。

**【熊谷労働者委員】**

どこにもいないということはあるんですか。

**【勝倉使用者委員】**

50隻もの船が1,000キロも沖に探しに行き、全部探索して、それでも全くいないということなので、いないと思います。よって、これから漁が回復するかわかりませんが、どのくらいのレベルに回復するかというのは、相当深刻だと思います。

**【高橋（真） 部会長】**

イカであれサンマであれ漁場が減ることになれば、加工産業も危ない状況になってしまいます。

**【勝倉使用者委員】**

魚種交替といって、例えばサンマが少なくなればイワシが増える。そういうことで今年はイワシが大漁なので、そういう形の缶詰とかが出てくると思います。

道東を中心に結構イワシが大漁で、何かイワシが強くてサバが入ってこれないところがあるようです。

**【高橋（真） 部会長】**

わかりました。

そのほか、何かありますか。

**【熊谷労働者委員】**

勝倉委員にお聞きしますが、清水で冷凍運搬船が結構待機しているようですが、今の現状はどうなっていますか。

**【勝倉使用者委員】**

まだ長期滞船が続いています。冷凍運搬船が各海域から集荷して戻ってきますが、それが今清水の港に10隻くらい待機しています。これまでは、その1隻揚げ切るのに約1カ月、30日から40日だったものが、今は大体3カ月くらい、90日から100日くらいかかっています。そしてその原因ですが、いろいろな要因が重なっていますが、要はそれを受け入れる側の清水とか八重洲とか御崎も含めて、その超低温冷蔵庫の満庫状態が続いているためです。だから、入れるところがないので水揚げができない状況が続いていて、それが4月、5月くらいから顕著になり、夏場は特にひどく、あわせて、南方海域で操業している海外まき網船のPS、刺

身用のキハダの大漁搬入と重なって、より深刻な状況になっているということです。

ただ、それも徐々に解消されつつあって、見通しですが、11月、12月くらいまでにはその異常な事態は解消されるのではないかという見方が業界の中にはあります。

**【高橋（真） 部会長】**

先月、話題になった気仙沼で座礁した船は、どうなりましたか。

**【白幡使用者委員】**

1週間くらい座礁していましたが、動かしました。満潮で座礁し、サメを満載していたので、おろすのに相当苦労しました。

**【高橋（真） 部会長】**

もう1つ気になったのは、サウジアラビアで攻撃がありましたが、その影響で燃油が上がるという話になっていませんか。

**【勝倉使用者委員】**

そのニュースの後に一時期15%くらい原油価格が上昇しましたが、月末までに設備が復旧するというニュースが流れて、WTIで60ドル以下に、今は58ドルくらいにまで下がったところです。

とりあえず、油の流通に関しては落ち着きを取り戻したところですが、リスクは抱えている地域です。

**【高橋（真） 部会長】**

わかりました、ありがとうございます。

ほかにありますか。

**【平岡使用者委員】**

9月3日にNHKニュースおはよう日本で、けさのクローズアップというコーナーがありますが、その中で「海の物流存続の危機も」と題し、記者が内航貨物船に乗船取材して内航船人手不足の実態を報じました。内航船というと聞きなれませんが、運んでいるのは野菜や牛乳など食料品や、発電に使われる石炭や石油など、私たちの生活に密接にかかわっていることや、平均月収が47万円でも長時間労働や休日のない生活が3カ月も続くということで、若手を採用してもすぐやめられてしまうという実態が、10分にわたり放映されました。働き方を抜本的に変えるには、運賃の値上げの検討など発注する側の企業を巻き込んだ議論が必要で、1企業の努力だけでは難しい実態があるため、国は今年6月に委員会を設立し、特殊な船員の働き方や30年間値上げされていないという運送料金のあり方など、事業環境の根本から改善していこうという議論がまさに現在行われており、

3カ月連続の特殊な勤務の改善や、本当に運送料金が値上げすることができるのか、私たちの生活にも影響がある問題だけに、さらなる対策が期待されますという内容でした。

また、新聞情報にも載っていますが、内航船の人手不足深刻、相次ぐ廃業、物流形態の遅れと題し、9月5日の日本経済新聞でも同様に船員不足の状況が報じられております。

#### 【白幡使用者委員】

人材不足については、旅客船や大型フェリーでもいろいろと苦勞している部分があります。いわゆる船内の売店、レストラン等の接客サービス要員も船員法の適用対象になっているので、船員手帳をつくったり、あるいはまた船員手帳交付前に未成年の場合であれば両親の許可書が必要であったりとか、陸上のアルバイトをする、コンビニ等でバイトする方々と比較しても非常にハードルが高くなっています。その辺、経営者は非常に苦勞されているし、最賃問題もそこそこあり、もう四苦八苦しているというのが現状です。

#### 【高橋（真） 部会長】

わかりました。ほかにありますか。

#### 【高橋（雅） 労働者委員】

最賃の話に戻りますが、中央の内航鋼船と海上旅客船の審議が整い、9月9日に内航鋼船が職員・部員、A・Bとも1,100円のアップで、職員Aが24万9,550円、職員Bが23万3,100円、部員でAが19万950円、Bが18万1,650円という金額になりました。海上旅客船は9月11日、こちらも職員、事務職員、部員とも1,100円アップし、職員が24万6,450円、事務部職員が19万2,350円、部員が18万5,000円という金額で協議が整いました。

#### 【高橋（真） 部会長】

わかりました。ありがとうございます。

そのほか、ございますか。

なければ、本日の議事は終了となります。

次回は、10月25日金曜日の13時30分から、会場はここ4階会議室で開催いたします。

◎閉 会